

「囃子田」の風景



「サンバイ」(音頭出し)

手に持っている「ささら」竹の先が割れている道具(を打ち鳴らして、掛け声の音頭をとります)。



特別養護老人ホームみくにへの慰問

若かりし頃、早乙女として演じていた人もいます。



小河内地区 どん落し祭

毎年五月頃、田植えが終わった時期に行われる行事です。



ひだの工の武田が番匠、秀吉様のご建立...

宮島の千畳敷は、どなたが建立なされた...

設立時期 昭和5年
 代表者 原本幸明
 連絡先 小河内Oプロジェクト(中野)
 e-mail nkneij@yahoo.co.jp



団長と早乙女たち

田植え歌が野山に響く!

小河内田楽団



田植え歌の歴史は?

小河内地方では、古くから「囃子田」という行事が行われ、「親うた」「小うた」「オロン」で構成される田植え歌を囃しながら、大正末期まで田植えをしてきたと言われています。

しかし、昭和に入り、農作業の変化と戦争の激化により、昭和十六年、小河内青年団が「献穀団」として「囃子田」を行って以降、途絶えていました。

昭和六一年、老人クラブの会員が青年時代を思い出しながら、「囃子田」を披露したことがきっかけとなって、「郷土芸能を後世に伝承しよう」という機運が高まり、平成三年に地元の芸能グループによって「囃子田」が復活しました。

その後、小河内コミュニティ推進協議会が大太鼓、鉦などの道具を購入。平成五年、「小河内田楽団」を結成し、現在に至っています。

「囃子田」とは?

昔は、田植えの機械など、全くなかったので、田ごしらえから収穫まですべて、人の手によって行われていました。

特に一本一本苗を丁寧に植えていく田植え作業は、重労働であったため、昔の農民は、「田植え歌」を歌い囃すことで、田植えを楽しめるものに変えていったと考えます。

また、「囃子田」には、もう一つの意味があり、「さんばい」と呼ばれる田を守る神を迎えて、先祖が米作りを大切に考え、豊作を祈る儀式であったとも言われています。

「囃子田」は、多くの早乙女と囃し方の男性が、歌太鼓に従って、一斉に歌い、揃った所作をする光景で、太鼓、すりさら、笛や鉦で囃しながら行う「田園行事」と言われています。

現在の活動は?

現在、団員は、囃子十七名、早乙女十五名の三十二名です。

安佐公民館まつりの様子



毎年、地区で行われるどん落し祭り(田植えが終わった後に行われる行事)や秋の収穫祭に参加するほか、安佐北区民まつり、やまなみ文化祭、特別養護老人ホーム「みくに」への慰問活動など行っています。

また、地域の行事などにも依頼があれば、積極的に参加しています。

練習は、出演する日の一ヶ月くらい前から毎週一回行いますが、若い人にも、是非、伝統芸能に触れてほしいと思います。